

ワールドゲームズ日本代表の座は誰の手に？

本年8月、秋田で開催されるワールドゲームズの選手選考方法が決まった。日本に与えられた出場枠は男女各2名ずつ。リレーではこの4名が一つのチームを組むという、スポーツ界でも珍しい男女混合リレーが行われる。

世界選手権でさえ、4名ないし6名の選手が選ばれる。男女各2名しか選ばれないワールドゲームズは、トップ選手にとっても狭き門なのである。

選考方法は以下のとおりである。

1) 秋田県協会がエリートポイント上位5位以内より、男女いずれか一名を推薦する

2) 全日本大会21Eの男女各上位1名

3) JOA事業推進会議を中心とする選考委員会が、全日本と東日本大会等の成績を参考に残り1名を選ぶ

1)の事項は、ワールドゲームズ開催地である秋田にとってアピール性のある選手を選考するという、プロモーション上の理由から加えられた条項である。この条項によって、選手の座に最も近いところにいるのが、秋田出身の加賀屋選手である。もちろん、本人は「秋田出身だから」という理由で選ばれてよしとする選手ではない。出る以上は恥ずかしくない成績、「親たちは現在でも競技のことがよく分かっていないようなので、なんだ、そんなものかと思われたいような結果を残したい」と語っている。その気合いが、秋の好成績にもつながっているようだ。

男子で、選手に選ばれる可能性が高いのは、松澤、そして鹿島田選手である。松澤は、今期絶好調であり、エリートポイント3位。東では、村越や加賀屋を抑えて、優勝している。抜群の走力に加え安定感も増してい

る。選手候補ナンバーワンと言えるだろう。

対する鹿島田は、今年度に入ってからほとんどレースをしていなかったが、11月以降復活。上位選手がほとんど出揃った多摩では、プランクを感じさせず優勝、つづく関東インカレの併設チャレンジでも、圧倒的なタイムで優勝するなど、存在感を見せつけている。加賀屋が秋田県によって選考された場合、この二人のいずれかが代表選手に選考されるのは間違いないだろう。



鹿島田浩二選手

誰が選手になるか？という問いに関しては、女子の方が答えることが難しい。昨年の世界選手権以来、もっともアクティブにレースをこなしている落合は、全日本リレーでは圧倒的なスピードを見せたが、今一つ結果が安定しない。反対に世界選手権以来不調だった金並は、ここ数レースで復活の兆しをみせつつある。同じく世界選手権代表の田島、三好も好調とは言えないまでも、着実な結果を残している。落合や金並も、彼女たちに対して圧倒的に優位にたっている訳ではない。

他の選手の追い上げも無視できない。東大、東日本という今期の主要レースで優勝した塩田（筑波大学）は、短めのレースに苦手意識を持っているようだが、選考材料がいずれもクラシック系のレースであり、す

で東日本で優勝しているから、ある意味で、もっとも選手に近いところにいると言うこともできる。日本のワールドカップで国際大会デビューした小林啓恵も、ショートインカレでは優勝するなど、依然学生ナンバー1の座を保っている。チャンスは十分にある。



落合志保子（上）と金並由香選手

全日本大会当日に選考結果が決まり、公表される予定である。また秋田県が選考する選手については、本紙が発行されるころには決まっている。世界初のワールドゲームズの日本選手という栄冠を手にするのは誰だろう？全日本の結果が注目される。

（写真はいずれも山岸倫也）